

名古屋電気学園 クラブ活動だより

愛知工業大学
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学名電中学校
愛知工業大学情報電子専門学校

令和元年春季版

(令和元年5月27日)
※選手の所属・学年などは
いずれも大会当時です。

選抜卓球 高校卓球部が5連覇達成!

名電高校卓球部は、第46回全国高校選抜大会の決勝(3月28日・福岡県北九州市立総合体育館)で野田学園(山口県)を3-1で下し、大会5連覇を成し遂げました。同部は夏の全国高校総体と合わせ、これで全国大会7連勝です。

全国高校選抜卓球大会 メンバー

- 主将 堀 千馬 (2年)
中村光人 (2年)
加山 裕 (2年)
堀川敦弘 (2年)
曾根 翔 (1年)
小林広夢 (1年)
横谷 晟 (1年)



選抜5連覇を成し遂げた名電高校卓球部



エースの重責を果たした曾根翔選手

準決勝では希望が丘(福岡)と対戦し、3-2と苦しめられました。チームが1-1で迎えた3番ダブルスの加山裕選手(2年)・曾根翔選手(1年)組は、劣勢から逆転してチームに大きな1勝をもたらしました。

決勝は、5年連続で同じ相手となるライバル校・野田学園との戦いになりました。1番・曾根選手の相手は、インターハイチャンピオン・全日本ジュニアチャンピオンである野田学園エースの戸上隼輔選手。曾根選手は劣勢になる場面もありましたが、終始、襲い掛かるように戸上選手に向かっていき、見事に3-2で勝利しました。2番は横谷晟選手(1年)が勝利、3番ダブルスは負けたものの、4番で加山選手がしっかりと勝利を収め、5連覇を勝ち取りました。

今枝一郎監督は「昨夏の愛知インターハイ優勝チームから主力が抜け、苦しい戦いになると予想される中で、平成最後の団体戦となる今大会に『歴史に名電の名前を!』という強い気持ちで臨みました。

決勝では『監督として最初の勝負だ』と思っていたオーダーが見事の中し、試合をしたい選手との対戦が決まりました。やはり1番での曾根選手の勝利は優勝を引き寄せる大きな要因だったと思います」と振り返ります。「全勝した選手がおらず、本当に一人一役、チーム全員で勝ち取った優勝だったと思います。連覇から受けるプレッシャーは大きく、優勝を決めた瞬間、涙する選手がいました。勝ち続ければプレッシャーも大きくなりますが、それをはねのけるだけの努力と準備を大切に、皆様に感謝することを忘れず、卓球部一丸となって日本一、また世界を目指したいと思います」。今枝監督、そして部員たちはさらなる精進を誓っています。



加山裕選手がストレート勝利で優勝を決める
=写真は、いずれもニッタクニュース提供

世界卓球

本学出身・在学3選手が出場、吉村真晴選手が混合ダブルス銀

4月21～28日に開催された世界卓球選手権ブダペスト大会（個人戦）に、混合ダブルスの吉村真晴選手（本学卓球部OB・名古屋ダイハツ所属）、男子シングルの吉村和弘選手（本学卓球部OB・東京アート所属）、男子ダブルスの木造勇人選手（経営学科2年）の愛知工業大学出身・在学3選手が出場を果たしました。



混合ダブルス銀メダルの吉村真晴／石川佳純選手

結果は銀メダルながら、吉村／石川ペアは2020年の東京五輪で初実施される混合ダブルスへの出場意欲を「このペアで戦えれば最高」と笑顔で語りました。

一方、兄の真晴選手に続いて世界卓球に初出場した吉村和弘選手は、男子シングルス2回戦でブラジルの選手に惜敗しました。張本智和選手（JOCエリートアカデミー）と組み、男子ダブルスで同じく世界卓球に初出場した木造勇人選手は、3回戦で中国ペアに敗れベスト16に終わりました。

混合ダブルスで石川佳純選手（全農）と組んだ吉村真晴選手は、準決勝でドイツのペアを4-1で下し、吉村／石川ペアとして3大会連続となる決勝進出を決めました。決勝は、中国の許昕／劉詩雯選手と対戦。吉村／石川ペアは、競り合いになった場面であと1本が取れず1（5-11、8-11、11-9、9-11、4-11）4で敗退し、金メダルに輝いた前回大会（2017年）に続く連覇はかないませんでした。



張本智和選手と組んで男子ダブルスを戦った木造勇人選手Ⓔ（写真は、いずれもITTF提供）



篠塚大登選手（ITTF提供）

国際大会で相次いで優勝 名電中高卓球部の選手たち

4月10～14日にフランス・メスで開催された卓球のITTF（国際卓球連盟）ジュニアサーキット・フランスオープンで、名電高校・中学選手たちによる日本チームがジュニア男子団体優勝を飾りました。

日本チームで戦ったのは、高校の横谷晟選手、篠塚大登選手と中学の鈴木颯選手。準決勝でドイツを3-1で下し、決勝はポーランドに3-0のストレート勝ち（不戦勝1）でした。同大会ではカデット男子シングルス決勝が中学の選手同士で争われ、鈴木選手が優勝、吉山僚一選手が準優勝しました。また、ジュニア男子シングルスでも高校の篠塚選手が3位入賞しました。

続いて4月15～19日にベルギー・スパで開催されたITTFジュニアサーキット・ベルギーオープンでは、ジュニア男子ダブルスで高校の篠塚・横谷選手組が優勝を飾りました。また、ジュニア男子団体で中学の吉山選手が出場した日本／ニュージーランド混成チームが準優勝し、カデット男子シングルスで中学の鈴木選手が3位の成績を収めました。

このほか5月8～12日のITTFチャレンジ・スロベニアオープンでも愛知工業大学の田原彰悟選手がアンダー21で3位の成績を収めました。

選抜卓球

中学は7連覇を逃す

名電中学卓球部は、第20回全国中学選抜大会（3月23～24日・新潟市東総合スポーツセンター）で3位の成績を収めました。大会6連覇中の同部は、準決勝で野田学園と対戦し、一番・鈴木颯選手が勝利しましたが、後に続くことができず1-3で敗退しました。

中学・高校の卓球部は、「打倒名電」を目指す全国の強豪校と毎年、紙一重の戦いを繰り返しています。名電にとって連覇は、対戦相手だけでなく「プレッシャー」という強大な敵を打ち負かさねば達成できない偉業であることを、今選抜の結果が示しているようです。

全日本卓球

大学卓球部選手たちが男子ダブルスで優勝・準優勝

丸善インテックアリーナ大阪（大阪市中央体育館）で1月14～20日に開催された全日本卓球選手権大会で、本学卓球部の木造勇人選手（1年）が張本智和選手（JOC エリートアカデミー）と組んで男子ダブルスに出場し、見事に優勝を飾りました。決勝の相手は本学卓球部の松山祐季選手（2年）と高見真己選手（1年）のペアで、中学時代から同じチームで切磋琢磨した学園の選手3人が優勝と準優勝を分け合う形になりました。

準優勝の松山祐季選手（右）・高見真己選手組＝写真は卓球レポート／バタフライ提供



張本選手と組んで優勝を飾った木造勇人選手（右）＝写真はニッタクニュース提供



男子ダブルスの決勝スコアは、木造・張本組（9—11、11—7、5—11、11—5、16—14）松山・高見組と、互いに一步も退かない接戦になりました。最終ゲーム、先にマッチポイントを握ったのは松山・高見組でしたが、木造・張本組が3度のマッチポイントをしのいで粘り強く勝利を決めました。

本学男女卓球部の選手たちは、男子シングルスで木造選手が3位、高見選手がベスト32の成績を収めたほか、混合ダブルスで高見選手・船本さくら選手（3年）組がベスト16などの成績を収めました。森本耕平・男子卓球部監督は「大会を通じて男女ともに好成績を収めることができました。特に男子ダブルスで決勝に進んだ選手のうち3人が本学生であったため、愛知工業大学の名前を十分にアピールできたかなと思います」と話しています。

の喜び、中・高・大が一体になって力を高めているのが学園の強み。世界に

吉村選手は、昨年の第十五回全日本学生選抜卓球選手権大会（十一月二十三～二十四日・名古屋市の日本ガイシスポーツプラザ）に出場。決勝で本学の高見真己選手と対戦し、4—0で下して初優勝しました。吉村選手は本学入学以来、全日本大会で四度決勝に進みましたが、いずれも敗れ、苦い思いをしました。五度目の正直となる大学生として最後の全日本学生選抜で、見事日本一をものにしました。



全日本ダブルス優勝の木造勇人選手に加え、大学男子卓球部主将の吉村和弘選手（四年）も全国大会で優勝を飾りました。名古屋電気学園は三月八日、名古屋ガーデンパレスで祝賀会を開き、関係者約百四十人が出席して快挙をたたえました。

吉村・木造両選手の卓球優勝祝賀会



学園の卓球部に期待する声飛び交った祝賀会

優勝報告する吉村選手①、木造選手



祝辞を述べる愛名会の佐々木真一会長

羽ばたく選手をたくさん育ててほしい」と関係者を激励しました。名古屋電気学園クラブ活動後援会と統合して部活動を支援する愛名会の佐々木真一会長も、自身と名電卓球の縁などにふれ「頑張る皆さんを支えていきたいと思います」と祝辞を述べました。卓球部に対する学園表彰などに続き、吉村・木造選手と森本耕平男子卓球部監督、鬼頭明卓球部総監督が優勝報告しました。吉村選手は「東京オリンピックに向け、日本人の三番手以内に入るところを目標にしています」と決意表明し、木造選手は成績不振に苦しんだ時期を支えた関係者の皆さんへの感謝を述べました。

名電2選手、世界ジュニア卓球で銀メダル！



田中佑汰選手

2018世界ジュニア卓球選手権オーストラリア大会（昨年12月2～9日）で、愛工大名電高校の田中佑汰選手（3年）と曾根翔選手（1年）が出場した日本男子団体は、2年連続となる銀メダルに輝きました。個人戦では、シングルスで田中選手がベスト8、ダブルスで田中選手・曾根選手がベスト8の成績でした。

日本代表は名電の2選手と、戸上隼輔選手（野田学園高校）、宇田幸矢選手（JOCエリートアカデミー／大原学園）の4選手。団体戦で日本は準々決



曾根翔選手（いずれもITTF提供）

勝のルーマニア戦から出場し、2番の田中選手が3-0で相手を下すなどストレート勝ちを収めました。2017年と同様に王者中国に挑んだ決勝では、トップの田中選手が1ゲームを先取するも、日本はこの後の競り合いをものにできずストレート負けを喫しました。

高校の吹奏楽部とフェンシング部を学園表彰



3月1日の表彰・吹奏楽部

学園は、全国大会でトップの成績を収めた高校の吹奏楽部とフェンシング部を学園表彰しました。愛名会もお祝いを贈りました。

◎…吹奏楽部は、3年の大澤萌さん、山田璃子さん、高橋希美さん、佐藤杏さん、大野瑞歩さん、山田里奈さん、高尾咲穂さん、加藤緋夏さんの8人が、昨年3月に神奈川県横須賀芸術劇場で開かれた第41回全日本アンサンブルコンテストに出場し、金管8重奏「第12旋法によるカンツォン」で金賞に

輝きました。

表彰は3月1日の卒業式前に校長室で行われ、後藤泰之理事長が8人と伊藤宏樹顧問、鈴木裕子副顧問に賞状などを手渡しました。後藤理事長は「3年間の思い出を大切に、新しい場所でも精進してください」と語りかけ、部員を代表して大野さんが「さまざまな協力があったおかげ」と感謝を述べました。伊藤顧問は「こつこつやれば金賞が取れると示し、部のステップアップのきっかけを作ってくれました」と教え子たちの頑張りを称えました。

◎…フェンシング部は、3年の尾矢陽太選手が1月のJOCジュニアオリンピックカップ・男子サーブルで優勝。この結果を受け2～3月のアジアジュニアフェンシング選手権に日本代表として出場し、団体戦銀メダルを獲得しました。

3月15日の表彰で、尾矢選手と富田弘樹監督、川嶋範夫部長に賞状などが手渡されました。併せて、尾矢選手の保護者に海外遠征費補助が交付され、アジア大会で卒業式に出られなかった尾矢選手のため卒業式が行われました。

尾矢選手は「名電卒業生の名に恥じないように頑張ります」と力強く抱負を述べました。



3月15日の表彰・フェンシング部

令和初Vは愛工大！ 愛知大学野球で 39 季ぶり頂点

愛知大学野球 1 部復帰を果たした本学硬式野球部は春季リーグ戦第 7 週第 2 日の 5 月 19 日、愛知学院大を 4-2 で下して勝ち点 4 とし、1999 年秋以来となる 39 季ぶり 18 度目の優勝を決めました。1 部昇格・即優勝は、2013 年秋の中京大以来となる快挙です。

本学は二回、相手のエラーで生じたチャンスを逃さず 2 点を先制。五回に平本敦己内野手、六回に尾濱徹捕手の適時打でリードを広げました。完投した新村将斗投手は今季 6 勝目を挙げました。

1 部復帰の力になった「最高の 4 年生たち」(就任 5 季目の平井光親監督)が去った今季は「入替戦回避」と控えめにスタート。勝ち点 3 を積み上げた時点で目標を優勝に切り替え、「昨季から雷は落とさないことに決めた」という平井監督の下、選手たちは優勝を決めた大一番ものびのびと戦い抜きました。

本学は 6 月 10 日開幕する第 68 回全日本大学野球選手権大会(明治神宮野球場・東京ドーム)に愛知代表として 23 年ぶり 10 度目の出場をします。初戦は 10 日午後 2 時、東京ドームで南東北代表の東日本国際大と。大会常連の強豪です。「うちは先制点を取ると乗っていけるチーム。まず一勝」と、平井監督ら全員が気持ちを引き締めています。



39 季ぶり優勝の歓喜、マウンドに駆け寄る選手たち

「ありがとう イチロー選手」

MLB シーズン最多安打記録(262 安打)、プロ野球通算安打世界記録(NPB/MLB 通算 4257 安打)・最多試合出場記録(NPB/MLB 通算 3563 試合出場)など数々の金字塔を打ち建てたイチロー選手が、3 月 21 日、東京ドームで行われたマリナーズ×アスレチックス戦を最後に引退を発表しました。母校・愛工大名電高校は、正門時計台に「ありがとう イチロー選手」と大書した懸垂幕を掲げ、偉大な卒業生への感謝を表しました。

イチロー選手引退に寄せて

東京ドーム 2019 年 MLB 開幕シリーズの最中に、マリナーズ、イチロー選手の現役引退ニュースが流れた。まさか？ いま試合に出場中の選手が電撃引退表明するなんて？ またイチロー得意のジョークか何かの間違いで…数年前に会った時には、私にイチローが「メジャーの選手と対等に戦おうとしても無理です。頭を使ったプレースタイル、日本野球は凄いなぞとアピールしたい。50 歳までプレーしたいんです」と語っていたからだ。開幕戦ではヒットこそなかったが、まだまだ守備と足は健在であると見ていた。

31 年前、高校野球入門の時に「プロ野球選手になるために愛工大名電高校に入学しました」と言っていた。170cm 55kg。その年に入部した新人選手の中では最もスリムで、スタミナもなかった。しかし、1 年ごとに技術と肉体が進化するその成長ぶりに驚かされた。日々の野球への姿勢はストイックで、ノルマを自らに課し、将来を見据えていた。決して自主練習の姿や努力の跡を他人に見せることのないものだった。

まさしく「努力の天才の姿」である。イチローの信条『継続は力なり』を実践し、野球ファンならず多くの人々に夢と感動を与えてくれた、記録と記憶に残るスーパースター。

日米の現役生活を通じて、いつも周囲を驚かせてきた。ふつうならお疲れさまと労いのコメントを贈るものと思うが、イチロー選手に関してはありきたりの言葉では終わらない。この先きっと、イチ流のギフトで私たちを再びビックリさせてくれるんじゃないかな？

いいぞ、いいぞ ICHIRO！ やったぜ ICHIRO！！

愛工大名電高校野球部監督 倉野光生
(イチロー選手高校時代のコーチ)



高校吹奏楽部第 54 回定期演奏会

学園が主催する高校吹奏楽部の定期演奏会が 1 月 6 日、名古屋国際会議場センチュリーホールで昼夜 2 部にわたって開かれました。54 回目となった今年は、後藤泰之理事長の挨拶に続き、高校の部全国最多 41 回目の出場を果たした 2018 年度全日本吹奏楽コンクールの演奏曲目であるコンサート・マーチ「虹色の未来へ」と吹奏楽のための交響曲「ワインダーク・シー」を、全日本の会場と同じステージで心を込めて演奏しました。



圧巻の演奏を披露した高校吹奏楽部定期演奏会

◎サマーコンサート(7月)日程決まる

12日・日進公演(日進市民会館)
13日・稲沢公演(名古屋文理大学文化フォーラム)
16日・名古屋公演(センチュリーホール)

プログラムは、伊藤宏樹教諭らの指揮による全 4 部構成。O・レスピーギ作曲の交響詩「ローマの祭り」より 4 曲や、昨秋の全日本マーチングコンテストで会場を沸かせたステージ・ドリルなどを披露しました。第 4 部は、第 50 回記念定期演奏会委嘱作品である「ゴールデン・ジュビレーション」(八木澤教司作曲)や、部員たちが作り上げたミュージカル「アニー」メドレーなどバラエティーに富んだ内容。会場と一体の合唱を織り込んだ坂本九さんメモリアルメドレーや、吹奏楽の聖地として知られた「普門館」(東京都杉並区)取り壊し直前にテレビ番組の収録で演奏した「宝島」の演奏などが続き、部の motto 「絆」の美しさを存分に伝えました。

春高バレーに 2 年連続 16 回目の出場



入場行進する名電バレーボール部

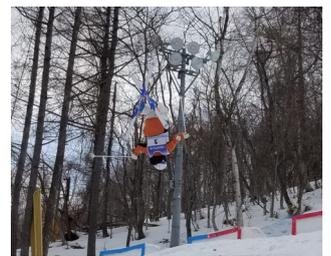
高校バレーボール部が、新春に東京・武蔵野の森スポーツプラザで開かれた第 71 回全日本高校バレーボール選手権大会(春高バレー)に、2 年連続 16 回目となる出場を果たしました。

大会には 2 回戦から登場し、佐賀県代表・佐賀学園高校との初戦は 2-0(25-19 25-12)で勝利しました。続く 3 回戦で、滋賀県代表の近江高校に 1-2(29-31 25-22 21-25)で惜敗し、昨年と同じベスト 16 で大会を終えました。

大会を振り返って北川祐介監督は「佐賀学園高校には全日本ユースチームのレギュラーセッターを務める選手もおり苦戦が予想されましたが、得意のコンビネーション豊かな攻撃と高さのあるブロックで勝利できました。近江高校戦では残念ながら名電らしい粘り強いバレーを展開できませんでした」と話しており、たくさんの声援に感謝しながら「次の大会から新チームとなります。今後も全国大会上位を目指して生徒と共に練習に励んでまいります」と誓いました。

伊原遥香選手が全日本スキー選手権大会で準優勝

大学競技スキー部の伊原遥香選手(経営学科 2 年)が、3 月 14~16 日にリステルスキーファンタジア(福島県猪苗代町)で開催された第 39 回全日本スキー選手権(フリースタイルモーグル)の DM 種目で準優勝しました。全国トップランキング 30 人によって行われた大会で、伊原選手は初日の MO 種目はコース中盤で転倒し下位に沈みましたが、2 日目の DM 種目でナショナルチームメンバーを倒して準優勝に輝きました。3 月に北海道で行われた宮様国際スキー大会でも 4 位に入賞し、全国大会入賞の成績を連続で収めています。



伊原選手のエア

中部日本学生スキー選手権で溝口雄平選手が 2 連覇、総合も準優勝



3 月 1~3 日、白馬岩岳スノーフィールド(長野県白馬村)で開催された「第 64 回中部日本学生スキー選手権大会」で、大学競技スキー部の溝口雄平選手(経営学科 3 年) =写真①=が大回転種目 2 年連続優勝を果たしました。

溝口選手はスーパー大回転で 5 位と出遅れましたが、次の種目の大回転で 2 位に 1 秒以上の差をつけ、2 年連続優勝を達成しました。最終日の回転でも 2 位に入り、安定した力を見せました。

今回、本学はアルペンチーム 4 人だけでの参戦となりましたが、全員がポイントを獲得し、総合でも準優勝 =写真②= と健闘しました。



■主な成績(個人)

- スーパー大回転：⑤溝口⑥瀧川幸広(経営学科 4 年)
- 大回転：優勝 溝口④安藤昂佑(経営学科 1 年) ⑥瀧川
- 回転：②溝口
- リレー：④加藤将汰(建築学科 1 年)、溝口、瀧川、安藤

種子島ロケットコンテスト大会で部門準優勝、ベストプレゼン賞

大学のロケット研究会（顧問・今野彰機械学科教授）が、3月6～9日に鹿児島県種子島宇宙センターで開催された第15回種子島ロケットコンテスト大会で、ロケット部門（滞空および定点回収）準優勝などの好成績を収めました。同研究会は、3年生2人、2年生11人、1年生5人の計18人。参加団体の中で唯一、5種目全競技に参加し、すべて書類審査を通過して本選に出場しました。

ロケット部門（滞空および定点回収）は、発射点から打ち上げ、出来るだけ長く空中に滞在し、かつ射点にいかに近く着陸できるかを競います。宮野智弘君、福富弘希君、中瀬雄斗君（機械学科1年）、小嶋一路君、渡辺瑛地君（同2年）のチームが、滞空8.8秒、距離6m33cmの記録で準優勝しました。種子島の強風対策としてユニークなメッシュ（網目）のパラシュートを採用し、当日は風で流されることを考慮して発射方位角度を設定しました。



好成績を収めたロケット研究会



滞空・定点回収競技

また、兵藤京香さんと塩瀬琴子さん（同2年）のチームも滞空11.87秒、距離32mの記録で4位の成績を収めました。

今大会は強風によるトラブルが多発し、フライバックタイムアタック部門（ペイロード3機を同じロケットで3回打ち上げ、その時間を競う競技）では全チームが失格し、勝者なしという事態に至りました。同部門に参加した渡辺瑛地君、中村知裕君（同2年）のチームは、記録は失格ながら、回収装置（パラシュート）をワンタッチで機体に収納する工夫などが評価され、3月6日の技術発表会で審査員特別賞（ベストプレゼン賞、IHIエアロスペース賞）を獲得しました。

ロケット部門準優勝チームは一年生中心で、大学のグラウンドで何回も試射をしてロケットの性能を確認しながらトライ＆エラーを重ねました。代表の宮野君は「準優勝に決して満足せず、既に来年の大会に向けてロケットの分析を始めています。来年こそ必ず優勝できるよう一層、研究・開発に力をいれていきます」と意気込みを話しています。

ベストプレゼン賞などを受けたチーム代表の渡辺君も「あらためて自然環境の中で同じことを3回行う再現性の難しさを感じました。この失敗を踏まえ、来年は周りのチームの機体や考え方も参考にしながら、今までの合計タイムよりも早く、そしてこのフライバックタイム競技の1つのテーマである『安全』に競技を終えられるよう研究を進めます」と来年の優勝を目指しています。

ロケット研究会では、戦略構想をしっかり立てたうえで機体をデザイン・設計して記録にチャレンジしており、全チームが後輩に伝えるべき「秘伝書」の作成に取り組んでいます。

フェンシング部が「丹羽奨励生」に

公益財団法人大幸財団（加藤延夫理事長）が美術や音楽、スポーツに励む高校生や大学生を支援する「丹羽奨励生」に、大学フェンシング部が選ばれました。



丹羽奨励証書を手にする佐々木拓海主将

平成30年度（第28回）丹羽奨励生となったのは5個人・8団体。本学フェンシング部は本年度は「第68回関西学生フェンシングリーグ戦」で2年ぶり5度目となる総合優勝を飾っています。

丹羽奨励証書の授与式は2月23日に名古屋市東区の大幸会館で行われました。フェンシング部は、奨励金をフェンシングの審判器セット（2セット）の購入に充てました。

ゴルフ部の練習場を新設



八草キャンパスの野球場北に、大学ゴルフ部用の練習施設が新設されました＝写真④。施設はテント屋根の鉄骨造りで、6打席の練習スペースがあり、打ち出しの距離は約20ヤードです。ゴルフ部の練習施設は、過去には総合技術研究所近くに設置されていましたが、老朽化が進み取り壊されていました。新施設は、当面はゴルフ部専用の練習場として活用されます。



クラブ活動で表彰される学生たち

大学生の課外活動を表彰

課外活動で優秀な成績を収めた大学の団体・個人に対する平成 30 年度課外活動表彰式が 3 月 23 日、八草キャンパス AIT プラザで行われ、曾我部博之副学長から表彰状・記念品が贈られました。曾我部副学長は「皆さんが優秀な成績を収められたのは、日々絶え間ない努力を積み重ねてきた結果です。これからもチャレンジ精神を磨き、さらに飛躍をしていってほしいと思います」と学生たちを激励しました。

【クラブ活動における表彰】

●団体

▽フェンシング部

島田翔大、南大地、永井靖人、森皓己

2018 年度全日本学生フェンシング選手権大会男子サーブル団体 5 位、第 71 回全日本フェンシング選手権大会男子サーブル団体ベスト 8

▽陸上競技部

今徳直輝、岡本優樹、植松達也、児玉勘太、小林宏輔、鈴木高虎、中村正明、服部大暉

秩父宮賜杯第 50 回全日本大学駅伝対校選手権記念大会東海地区選考会優勝

▽ヨット部

石黒武志、末永征覇、兵藤麗奈、加藤俊大、柴本陸、矢ヶ崎新、仲村駿希、矢野聡美、服部竜樹

2018 年度秋季中部学生ヨット選手権大会国際 470 級優勝

▽洋弓部

本多和樹、宮島健人、坂田昌平、岩島志龍

2018 年度東海学生アーチェリー王座出場校決定戦男子団体準優勝

▽ロケット研究会

長谷川大也、中西拓巳、深水勇希、秋山寛貴、小嶋一路

第 14 回種子島ロケットコンテスト種目 2 ロケット部門パイロード有翼滞空競技準優勝

三木一慶、永田真也、河合亮佑

第 14 回種子島ロケットコンテスト種目 3 ロケット部門高度競技優勝

飛渡大和、中村知裕、渡辺瑛地

第 14 回種子島ロケットコンテスト種目 4 ロケット部門フライバックタイムアタック競技 優勝

●個人

▽卓球部

吉村和弘

第 15 回全日本学生選抜卓球選手権大会男子シングルス優勝

▽陸上競技部

植松達也

第 84 回東海学生陸上競技対校選手権大会男子 3000mSC 優勝

児玉勘太

第 84 回東海学生陸上競技対校選手権大会男子 5000m 優勝

小林宏輔

第 84 回東海学生陸上競技対校選手権大会男子 1500m 優勝

鈴木高虎

第 84 回東海学生陸上競技対校選手権大会男子 10000m 優勝

▽ヨット部

兵藤麗奈、矢野聡美

2018 年度中部学生女子ヨット選手権大会国際 470 級優勝

石黒武志、矢ヶ崎新

2018 年度中部学生ヨット選手権大会国際 470 級優勝

末永征覇、兵藤麗奈

2018 年度中部学生ヨット選手権大会国際 470 級準優勝

▽水泳部

森拓海

第 17 回石川県学生選手権水泳競技大会～金沢オープン～男子 50m 平泳ぎ優勝

高校 10 クラブ、中学 3 クラブをクラブ表彰 (昨年 12 月～今年 3 月)

学園は昨年 12 月～今年 3 月にかけて、全国大会に出場の高校 10 クラブ、中学 3 クラブに対してクラブ表彰を行いました。後藤泰之理事長が「上を目指して、気持ちで負けないように」などと各部の顧問、選手らを激励し、愛名会、高校同窓会、高校 PTA からのお祝いが贈られました。

【昨年 12 月 12 日の表彰】

- ▼高校将棋部
(第 27 回全国高校文化連盟将棋新人戦大会)
- ▼高校バレーボール部
(第 71 回全日本バレーボール高校選手権大会)
- ▼高校吹奏楽部
(第 66 回全日本吹奏楽コンクール、第 31 回全日本マーチングコンテスト)
- ▼高校ボウリング部
(第 25 回全国高校対抗ボウリング選手権大会)

【2 月 1 日の表彰】

- ▼高校メカニカルアーツ部
(ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2019 和歌山)
- ▼高校競技スキー部
(全国高校総合体育大会スキー競技)
- ▼中学メカニカルアーツ部
(ロボカップジュニア・ジャパンオープン 2019 和歌山)
- ▼中学スキー部
(第 56 回全国中学校スキー大会)

【3 月 15 日の表彰】

- ▼高校卓球部
(全国高校選抜卓球大会)
- ▼高校フェンシング部
(第 43 回全国高校選抜フェンシング大会)
- ▼高校相撲部
(全国高校相撲選抜大会)
- ▼高校ウェイトリフティング部
(第 34 回全国高校ウェイトリフティング競技選抜大会)
- ▼中学卓球部
(第 20 回全国中学選抜卓球大会)



中部学生ゴルフ春季 1 部・2 部大学対抗戦 3 位入賞、6 年連続で全国大会へ

大学ゴルフ部は、中部学生ゴルフ春季 1 部・2 部大学対抗戦 (5 月 14～15 日・豊田市のセントクリーク GC) で 1 部校 3 位の成績を収め、6 月 20～21 日に北海道の苫小牧 CC で開催される「第 56 回全国大学ゴルフ対抗戦」への出場権を獲得しました。

対抗戦には、入学時からレギュラーを務める佐野琢朗選手 (経営学科 4 年)、コンスタントに力を発揮する林大貴選手 (経営学科 2 年) と、直近の地区大会で上級生を上回る好成績を収めた新入生 2 人 (兼松泰良選手、足立一樹選手: 経営学科 1 年) を中心としたレギュラー選手 6 人=写真=を 18 人の部員から選出して臨みました。

平成 26 年度の秋季団体戦以来、6 年連続の全国大会出場となります。個の力の向上とチームワークの強化に努め、悲願の「全国大学ゴルフ対抗戦」団体戦と個人戦でベスト 10 入りを目指します。